ワシントンは世界に対し、ノルド・ストリーム爆破の説明責任がある

Global Times
February 10, 2023

あるデンマーク国防司令部による写真が、「ノルド・ストリーム２」ガス・パイプラインのガス漏れの様子を示している。2022 年 9 月 27 日、デンマークのボーンホルム島近くで、F-16 哨戒機から見たもの。ロシアとヨーロッパをつなぐ 2 本の「ノルド・ストリーム」ガス・パイプラインは、まだ説明されていないリーク事故を起こし、破壊の疑いをかけられている。写真 AFP

「ノルド・ストリーム」パイプライン爆破以来、4 か月以上もたってから、アメリカの調査ジャーナリスト、シーモア・ハーシュ（Seymour Hersh）によるショッキングな報告が、水曜日、再び、国際的な一般の見解に火をつけた。この報告の内容は、アメリカの情報局員たちが、ジョー・バイデン米大統領の命令によって、どう破壊を計画し、米海軍がノルウェー軍と協力して、どうその爆破を実行したか、その詳細を明らかにするものだった。この報告が発表された後、ワシントンは慌ててこれを否定した。しかし、単純に「フェイクニュース」という言葉を使うということは、それが納得できないものである証拠である。国際共同体は、ワシントンが納得できる説明を公表するまで、問い続けなければならない。

現在 85 歳のハーシュは、有名なピューリツァー受賞ジャーナリストである。50 年以上も前に、米軍によるベトナム市民虐殺を暴いた彼の報告は、アメリカの反戦運動を大きく動かした。彼はまた、2003 年の悪名高い Abu Ghraib（アブグレイブ刑務所）虐待事件調査の、背後にいた人であり、米史上特に重要なウォーターゲイト・スキャンダルの暴露にも貢献した。ハーシュのこの最近の報告は、一般の陰謀論とは比較にならず、ワシントンが見ぬふりをして誤魔化せるようなものでもない。

正直に言えば、アメリカについてのこの疑惑は、単に根拠がないから間違いだという話でなく、暴露されたその詳細が、いまだに、身の毛のよだつものだということである。たとえば、この報告の主張するのは、ワシントンは「ノルド・ストリーム」パイプライン爆破の計画を、2021 年の終わりから密かに立てており、それはロシア-ウクライナ紛争の始まるずっと前だったということである。そして 9 か月以上もかけたこの討論の中で、ワシントンは、パイプラインを爆破するか否かを論じたのでなく、いかに証拠を残さないようにするかを論じていた。したがって、実行部隊、時間、場所、爆破の方法は、すべて注意深く計画された。ハリウッドの最も空想的なスクリーン・ライターでも、これほどのプロットは書こうとしないだろう。もしハーシュの報告に述べられていることが本当なら、世界は、平和を破壊するアメリカがどこまでやるかを、もう一度考え直さねばならないだろう。

世界の最も重要な、国家同士のエネルギー供給インフラの 1 つである「ノルド・ストリーム」パイプラインの爆破は、国際的な政治における過激派的出来事だった。壊れやすい政治的な相互信頼の下で、「ノルド・ストリーム」パイプラインは、かつては、西ヨーロッパとロシアをつなぐエネルギーの大動脈であり、共通の利害の広がりによって、安全保障の状態を安定化していた。その理由によって、それは今までずっと、ワシントンの「目の中の棘」だった。

NS パイプラインの爆破によって、ヨーロッパに共通の安全保障を築くための、残された唯一の橋が壊された。このことは、西ヨーロッパ諸国が、ロシア-ウクライナ紛争の十字路にあるアメリカとの絆を、深めざるを得なくなることを意味する。ハーシュは同時に、この最近の報告で、「ドイツと残りの西ヨーロッパは、ロシアの供給する低価格の天然ガスの味は忘れられず、ヨーロッパのアメリカ依存は減っていくだろう」と言った。これが、ワシントンが NS パイプラインの爆破を決定した、主要な理由の一つである。

重要な市民のインフラを攻撃し破壊することは、テロリストの言語道断な行為であって、断じて許されないことである。国際共同体でこの点について異論をもつ者はいない。爆破の後で、多くの国家が公的にそれを非難し、米国務長官アントニー・ブリンケンもまた、NS ガス・パイプラインの破壊は「誰の利益にもならないだろう」と言った。

そこで Global Times は社説を発表し、関連する国際機関に呼びかけて、すみやかに真実を取り戻すために、共同調査チームを設け、犯行者たちを見つけ出して罰を受けさせよと言った。しかし案の定、いくつかの国家は、そのような国際的調査を妨害しており、4 か月以上が過ぎても、ほとんど進展がない。ハーシュの報告が少なくとも現在、国際的調査への重要なカギとなっている。

注意すべきことは、常に「プロフェッショナル」で「独立している」と公言していたアメリカの主流メディアが、ハーシュの暴露に対して選択的に盲目であったか、またはアメリカ政府による否定を報道するだけだった。爆発後のロシアに対して、皆が一斉に指を差したのに対して、この異常な沈黙は、アメリカのメディア機関が、言っていいことと悪いことを、よく弁えていることを示している。

非常に多くの事実が、アメリカは「ダブル・スタンダード領域」での模範的リーダーであることを示している。彼らはまるで憑かれたようにうわさを創り出し、また他者に対して根拠のない非難をすることに長けている。しかし彼らは決して、たとえ証拠が確実でも、自分自身の間違いや犯罪さえ認めることはない。そうする代わりに彼らは他者を責めようとする。一般大衆の意見では、アメリカ政府はハーシュの暴露に対して、きっとそのように応ずるだろうと予言している。そしてそれは、その国際的な信頼にまた一つ汚点を残すことになる。

それは NS パイプライン事件がどのように起こったのかについて、21 世紀の Rashomon effect（羅生門効果――証言が多すぎて真実がわからない）事件になりそうである。しかしそれは、我々が真理の追及をやめるべきだという意味ではない。なぜなら、それは道徳、責任、それに良心だけの問題ではない。それは人間が、将来、この時代の歴史期間を顧みるとき、戦争と平和について、どんな脚注をつけるかの問題だからである。

［訳者 Greatchain 注］

この事件についての話題が、今にわかに浮上している。これはシーモア・ハーシュという、超有名で信頼されるジャーナリストの暴露記事をきっかけとして起こったことで、現政権のアメリカのやることの底知れぬ恐ろしさを、改めて世界に知らしめることになった。

彼らは世界中の誰が見ても、犯罪者として存在し、恥知らずの闇の活動をしている。この者たちに媚びたり、スクラムを組んで同盟を誓ったりする者は、その無知蒙昧に呆れ嘲笑されると同時に、同じ穴のムジナとして憎まれるだろう。我々は少なくとも

Seymour Hersh のことを、歳をとって呆けたのだろうなどと、言わないようにしたいものである。

関連記事：**「ラヴロフ：米高官たちは、彼らがノルド・ストリーム爆破に責任があることを認めている」**（Infowars）
「グローバリストの UFO パニック宣伝は、Nord Stream ニセ旗攻撃や、迫る 3 次大戦の脅威から目をそらすため」（Infowars）